

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2020年5月7日

Reopening The Economy

(経済の再開)

新型コロナウイルスの感染者と死者数が世界トップ状態の米国では、幾つかの州が1か月半経過したロックダウンを4月末から5月初旬に徐々に解除し、経済の再開に踏み切りました。

本来、2週間連続で新規の感染者数が減少していることが再開への条件でしたが、ロックダウンは国民達の我慢の限界となっています。

報道では死者の多いイタリアでもコンテ首相の方針の元、ウイルスとの共生をしつつ、5月4日から業種を分けて段階的に経済活動を解除しました。

各国ともワクチンを待たずして、徐々に経済活動の再開は拡大していく流れは止められません。

米国では、州独自で少しでも安全に経済を再開するために、台湾や韓国の新型コロナウイルス封じ込めの成功例や、週に90万件の検査を行い、致死率低下を可能にしたドイツなどに見習う動きも出ています。

全米50州トップ 人口4000万人のカリフォルニア州の中で、最も人口の多いロスアンゼルス群では、4月29日に全米の主要都市で初めて新型コロナウイルスの症状が無くともPCR検査は無料で全市民に受けってもらう発表を行いました。

2日後の5月1日には日本人を含む世界各国から来ている在米者にも領事館などを通じて、検査を受ける場所や方法などの情報がメールで送られてきました。

これまではPCR検査キットが十分に確保できないとの理由で、社会機能維持に不可欠な職種の人と症状を既に発症している人しか検査を受けることはできなかったのですが、

ガーセティ市長は制限を緩和し、経済を再開していく上で検査数の拡大が最優先であり、感染者を把握し、感染の危険を回避するための投資に値段はつけられないという強い信念の元約400万人の全市民に検査を受けることを奨励したいとしています。

世界で最も事態が深刻なニューヨークでも最大2万人を採用して住民の接触経路を追跡する調査を開始しました。

そしてこのブログを書いている間にも、カリフォルニア州のニューサム知事から州民に逐次、発信されるメールが届きます。

5月8日からは洋服屋、花屋、本屋、スポーツグッズ店と関連する商品を供給する企業が再開します。

感染者数が少ない、または抑えられている傾向のある町から決定し、状況を見ながらではありますが、更にビジネスを再開する次段階に進むとのことでした。

新型コロナウイルス拡大でフードサプライチェーンを含む大きなサプライチェーンの混乱を伝えるニュースが日々飛び込んできます。

4月後半には世界最大の豚肉生産会社のスミスフィールド・フーズのイリノイ州での操業停止に始まり、ホームルフーズ、ジェニーオーと続き、ついに食肉加工業最大手のタイソン社までもが施設をシャットダウンしました。

米国のみならずカナダ、ブラジルでの加工施設も閉鎖されており、米国では生産量の30%が業務停止のために、すでに店舗での急激な値上がりと品不足が起っています。

一刻も早く処理施設内で働く従業員の感染拡大を防がないと家畜農家は精肉処理が行えず、まもなく食品店の棚に並べる商品を供給できなくなるリミットが近づいていると危惧されています。

米国を代表するファーストフードのハンバーグチェーンで使用する挽肉等の仕入れにも多大な影響を与えるであろうと危惧されています。

そして5月6日には全米で約6700店舗を展開しているWendy'sの全体の2割近い店舗で挽肉の仕入れが停滞しており、場所によっては一時的にダブルパテのメニューをリストから外し、シングルバーガーのみの注文しか受け付けないというニュースが入りました。

マクドナルドやバーガーキングでは今のところの在庫には問題ないようですが、今後は状況次第でメニューの変更も検討しているそうで、仕入の流れを注意深くコントロールしているそうです。



米国で流通している主流な商品の幾つかは中国やインドなどの諸外国で生産されており、トランプ大統領の命令で米国内でも規制が緩和される”Made in & Buy American”生産がスタートするようですが、それでも需要に生産量が追いついていかないのではと危惧されています。

例えば、ノートパソコンなどのIT機器は主に中国から輸入していましたが、工場閉鎖によって生産量は激変し、最近になって中国の工場が再開されたとしても、同様に輸入元のインドの工場閉鎖が続いているので、連鎖して品不足が生じる恐れがあるようです。

医療に使用される呼吸器、手袋、医療用マスクは同様に新型コロナウイルスの影響を受けているヨーロッパ、トルコやインドからの輸出が規制されており、同時に米国で製造されるジェネリック医薬品の約4割と何種類もの薬品製造に使用するために必要な原料は工場が自粛解除されていないインドからの輸入に頼っているそうです。

これらはプライベートブランドで低価格の薬品を製造販売している大手ドラッグストアにも深刻な影響を与えると危惧されています。



テクノロジーや科学が発達した 21 世紀のこの世の中でも、新型コロナウイルスというウイルスを未だ熟知できておらず、このように混沌とし、リスクを抱えながらも、経済を再開させる など誰が想像したでしょうか。

米国は日本と違い、床屋や美容院も業務停止中で、私の髪の毛も伸び放題です。個人的には早く美容院に行きたいと願っていますが、それ以上にやりたいことは友人に会い、ハイキングして、たまには外食して、そして全米と世界中を訪れて、仕事してと、ほんの数か月前の生活に戻りたいと切に願います。

今まで当たり前だと思っていた日常がこのわずかな間でこんなにも変わってしまった事が未だに信じられません。

そんな時に米俳優トム・ハンクスさんがオハイオ大学のバーチャル卒業式へ捧げたスピーチを拝見し、とても勇気づけられました。

彼はオーストラリア滞在中に新型コロナウイルスに感染し、回復したことで有名で、ハンクス氏は卒業生にむけて、「今後自らの人生について語る毎に、戦前と戦後、IT 前と IT 後の世界、そしてビヨンセ登場前と後などに匹敵するほどの歴史的転換期に生きた人たち同様に、パンデミック前とパンデミック後という風に分けて話すだろう。

パンデミック前の世界は君らにとって大きな意味を成すだろう」と述べ、

"You will have made it through a time of great sacrifice and great need and no one will be more fresh to the task of restarting our measure of normalcy than you, you chosen ones," he said

“選ばれし君たちよ、きっと君らはこの大きな受難と難局の時を生き抜くであろう、平常を取り戻す為の使命を果たすべく選ばれた君たちほど、清々としてふさわしいものは他にはいないのだよ“ と述べました。

ハンクス氏の言葉は、今の時代に生きている我々すべてに対するエールであるとも思っています。

